

～国会議員食堂で腕を振るう寿司職人～

第15回

情熱 境 JOUNETSU-SAKAI

お客様への心を握る寿司
いしはら よしひろ
石原 良博

【略歴】

◆石原良博（いしはらよしひろ）
昭和23年1月5日境町で生まれる。長田小、境一中を卒業し、15歳の時に寿司職人を目指し上京。寿司「初花」にて修業を積み、その後暖簾分けで春日部に店舗を構える。50代で東京へ戻り「初花」会長に、それ以来主に国会議員を相手に腕を振るう。平成18年には、寿司職人として文京区より匠の称号を受ける。



「寿司なら誰にも負けない自信があります」

◎**厳しい修業も今では良い思い出**
修行当時は、住込みで、給与も5千円〜6千円ほど、月2回の休みはあったものの、生活していくためにほぼ毎日休まず働きました。毎朝5時に起きて築地に仕入れに行き、洗い物、しゃり焼きや仕込みなど翌日1時頃まで働き、先輩に怒鳴られながら仕事を体で覚える日々の繰り返しでした。
辛いこともたくさんありましたが、ある時、巻物300本の注文を任せられ、5時間ほどですべてを巻き終えてお客様に喜ばれたことなど、今では良い思い出です。

◎**境町について**
境町は今でも年に数回、お墓参りなどで訪れます。今は離れていますが、ふるさと境町の発展をいつも願っています。

◎**寿司職人への道のり**
私は、昭和38年の15歳までの間を境町で過ごしました。親戚の柿沼金物店のおばあちゃんが、東京の深川に本店を構えていた初花寿司の大旦那（店主）と兄弟だったため、おばあちゃんからの紹介で、寿司職人を目指して上京しました。



情熱「境」では、境町在住・出身の方、また境町に縁のある方で、芸術、音楽、スポーツ等、様々な分野で活躍されている方を紹介します。第15回は、日本の政治の中心となる永田町の国会議員食堂で、日々進化した寿司を提供し続ける境町出身の寿司職人、「初花」会長の石原良博さんにお話を伺いました。



表彰式に参加された皆さんでの記念撮影（前列右から2番目が染谷さん）

茨城県町村会 茨城県町村議会議長会
長年にわたる功績をたたえて
自治功労者表彰

スポーツ振興の発展に貢献
教育・福祉の発展に貢献

八勝会 会長 篠崎 正貴さん

五ツ輪会 会長 染谷 勝子さん



式当日欠席につき、橋本町長から表彰状を伝達される篠崎さん



表彰式後の懇親会で橋本知事と握手をする染谷さん

境町から2名の自治功労者が表彰

2月16日、茨城県市町村会館において、県内各町村の発展に顕著な功績のあった方を対象に、自治功労者表彰式が行われ、境町から民間自治功労者として染谷勝子さん、篠崎正貴さんの2名の方が受賞されました。
染谷さんは、社会教育委員、民生委員児童委員、社会福祉協議会評議員、境町ボランティア連絡協議会監事など27年間の永きにわたり教育・福祉の発展に貢献されました。さらに、舞踊団体・五ツ輪会の会長としても、介護施設を慰問するなど積極的な社会貢献をされています。
また、篠崎さんは、境町体育協会の理事、副会長を35年間の永きにわたり務められ、スポーツ振興の発展に貢献されました。さらに、公式空手部・八勝会の会長としても、あいさつや礼儀を励行し、スポーツを通じた地域コミュニティづくりにも積極的な活動をしており、子どもの健全な育成に貢献されています。
受賞者の皆様の今後益々の活躍をご祈念いたします。